

第14回中山間地域等総合対策検討会（現地調査）の概要

1 調査概要

- (1) 目 的 中山間地域等直接支払制度の実施状況の把握、現場からの意見聴取等
- (2) 調 査 日 平成16年5月26日
- (3) 調査場所 新潟県松代町
- (4) 調査委員 小田切徳美委員、内藤英代委員、守友裕一委員
- (5) 調査内容
 - ① 松代町蓬平、峠、竹所集落協定の現場の取組状況調査
 - ② 松代町役場会議室において、新潟県、松代町及び安塚町の代表から意見陳述
 - ③ 意見交換

2 意見交換会等

(1) 意見陳述

① 意見陳述者

新潟県農林水産部長
 松代町助役
 蓬平集落協定会計担当
 JA十日町しぶみ地区営農センター長
 安塚町助役
 坊金集落協定代表者

森 邦 雄
 高 橋 嵩 一
 若 井 君 男
 関 谷 安 の 則
 丸 山 新
 外 立 軍 一郎

② 意見陳述の主な内容

1) 松代町

- ・営農活動や集落の活性化に大きな効果が出ており、町が元気になった。
- ・当町では経営規模の拡大は困難であり、今後も制度を活用して集落単位での生産組織の育成に力を入れたいため、制度の存続が必要。

2) 蓬平集落

- ・集落での共同活動を行うことにより、集落内の住民同士の交流が活発となった。
- ・現在行っている取り組みを定着させるためにも、現行制度のまま5年だけでも継続して欲しい。

3) JA十日町

- ・新規作物に関する相談が増える等集落営農活動が活発化している。
- ・研究部会を立ち上げて、農地の法面を有効活用する山菜栽培の研究をしている。
- ・これまでの取組を継続し、さらに生産組織を中心とした集落営農へと発展させていくために制度の継続が必要である。

4) 安塚町

- ・本制度を国土保全政策として持続的かつ安定的な制度とするべき、また、がんばっている集落には加算する等メリハリが必要。
- ・今後は、都市住民も含めた外部の人々の受け入れ可能となるような集落内の組織体制を作りたい。

5) 坊金集落

- ・制度を契機に安心安全な米作りを目標に活動を行っている。
- ・集落組織内に女性・若者の部会を作り積極的な活動を行っている。

6) 新潟県

- ・耕作放棄地の防止効果のみならず多様な効果が出ており制度の継続が必要。
- ・今後は、安定的な営農体制とするため集落間の連携、「守り」と「攻め」の活動の明確化、地域特性に応じたマスタープランの策定が重要。

(2) 意見交換会における主な内容

- 都市からの新規参入も含めて多様な担い手が参画出来るような仕組みづくりが必要ではないか
→若いうちは兼業で行い、定年後に専業農家となるのが今後の中山間の農業の方向性ではないか。(坊金集落)
- 本制度は施策メッセージが届き易い制度であり、女性や若者にも浸透させることが重要ではないか。
→女性や若者が集落の話し合いの中心とはならないが、集落活動には積極的に参加している、制度の思想は十分に理解・浸透していると思う。(蓬平集落)
- 農業は継続することが重要である、例えば有機栽培は3年続けるのと5年続けるのでは農作物の価値が違う。(坊金集落)
- 今後、高齢化が進んでいく中で5年後、10年後の将来像をつかむのが困難になってきている。担い手の育成が重要である。(松代町)
- 市町村合併後においても、本制度を含めて中山間地域対策に支障が出ないように配慮してほしい(安塚町)